

監督各位  
選手の皆様へ

全国高等学校体育連盟テニス専門部

## 応援・マナー等について

高等学校における体育・スポーツ活動は、学校教育の一環として行われるものです。

競技者は、競技規則はもとより社会生活におけるルールとマナーを守り、フェアプレイの精神に徹することや、競技を通してお互いの友情を深めることを忘れてはいけません。

残念ながらここ数年、全国大会における応援・試合中の選手のマナーの低下が顕著になっています。特に全国大会出場選手・チームは、全ての高校生テニスプレーヤーの目標・お手本となるような言動を心掛け、また、審判補助員、大会運営関係者に対して感謝の気持ちを忘れないようご指導いただけますようお願いいたします。

過去の全国大会で起こった事例と注意事項(抜粋)を記します。こうした事例が二度と無いよう、一時の感情に流されることなく、テニス競技と真摯に向き合うことで人間的に成長することを期待します。

### <事例>

- (1) 試合終了後、選手が審判(生徒)に対して「クソ審判〇〇」と発言。監督立ち会いの下、本人に状況確認。大会レフェリーから嚴重注意。選手から審判生徒へ謝罪、反省文提出。  
(全国選抜高校)
- (2) 応援者達が目に余る悪質な暴言多数(応援)。翌日の朝、全顧問を呼び注意。又、該当校の顧問、選手、応援者に対し別室で嚴重注意、声出し応援禁止、拍手のみの応援にするよう指導。  
(全国選抜高校)
- (3) 団体戦でベンチコーチに入らず、チェンジエンドの際に外部コーチより伝令としてコート内ベンチ入ってアドバイスを実施、戻ってくる行為が数回見られた。伝令としてアドバイスをしているので注意をした。  
(全国高校総体)

<注意事項>

(1) 団体戦のベンチコーチについて

- ベンチコーチは監督または登録選手が、各コートに1名ずつ入ることができる。
- インプレー中は、ベンチに座って選手のプレーを静かに見守る。
- コーチングは、エンド交代時およびセット・ブレイク時のみ行うことができる。  
※ タイブレイク中のエンド交代時はコーチングできない（水分補給や汗拭き）。
- ポイント間は、技術的内容・戦術的内容を含む声掛けやジェスチャーはできない。  
〈良い例〉頑張れ、ナイスショット、ドンマイ、先リード、ポイント、強気、集中、ファースト  
〈悪い例〉前に出る、もっと振り抜け、ラリーを続けろ、打っていけ、もっと攻めていけ
- ポイント間に選手のもとに行くこと、選手を呼び寄せることをしてはいけない。
- 多面同時展開のとき、隣コートの応援やコーチングはできない。その場合はコートを移動して行う。  
コート移動は、インプレー中でなければいつでもできるが、時間内(25秒等)で速やかに行う。  
ただし、選手がサーブを打つ準備（ボールをつく等）に入ったら、移動は認められない。
- 日傘や雨傘を差してもよい。ただし、光が反射してプレーの妨げとなる傘を差すことはできない。

(2) 観客席からの応援について

- 試合中、コート外の誰からもコーチング（ジェスチャーも含む）を受けることはできない。
  - 頑張れ、ナイスショット、ドンマイ、先リード、ポイント、強気、集中、ファースト等の応援はいいが、前に出る、もっと振り抜け等の技術的内容・戦術的内容を含む応援はコーチングとして判断される。
- 観客席からの悪質な応援（パルチザン・クラウド）への対応
- 1回目は、ウォーニング（警告）を与える。
  - 2回目以降は、ポイント・ペナルティを科す。

<全国高体連テニス専門HPより>

歌や複数部員による連呼は試合前の練習時間のみに行ってください。

<例>3ポイントの団体戦の場合、各試合前の練習時（3回）。

<ルールブック 2024 P.155 抜粋>

コーチは試合中あるいはトーナメント会場内で、相手プレーヤー、アンパイア、観客、トーナメント役員などに対して言葉やジェスチャーを使って侮辱したり、暴力を振るったりしてはならない。また、トーナメントの名誉を著しく損なうような悪質な言動を行うコーチに対し、レフェリーは、試合コートあるいはトーナメント会場から退場を命じ、そのプレーヤーを直ちに失格にすることができる。

<ルールブック 2024 P.156 抜粋>

チーム戦において相手チームのプレーを妨害するような応援をしてはいけない。悪質な応援の場合は、応援するチームに対し、1回目警告、2回目以降はその都度ポイントペナルティを科す。